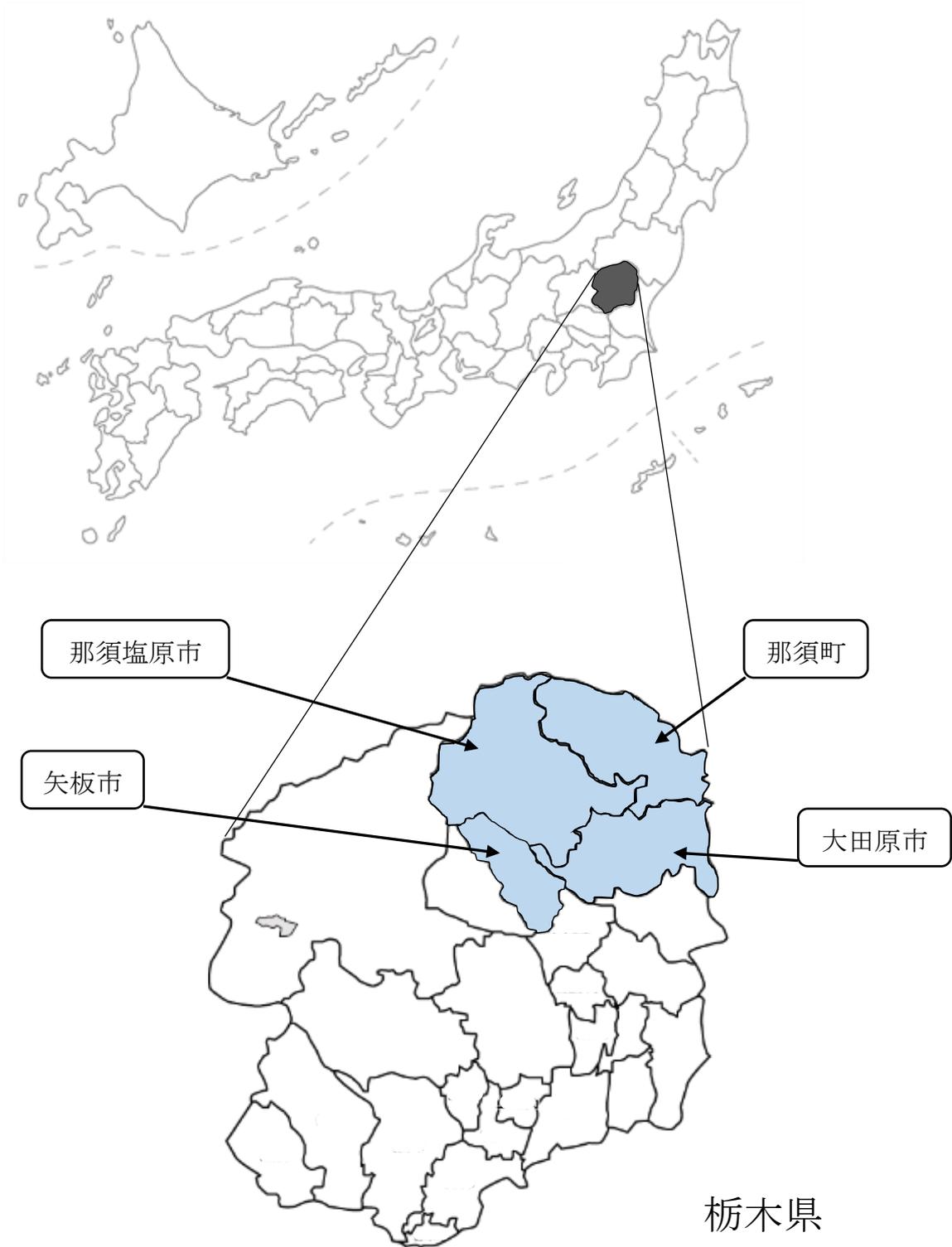


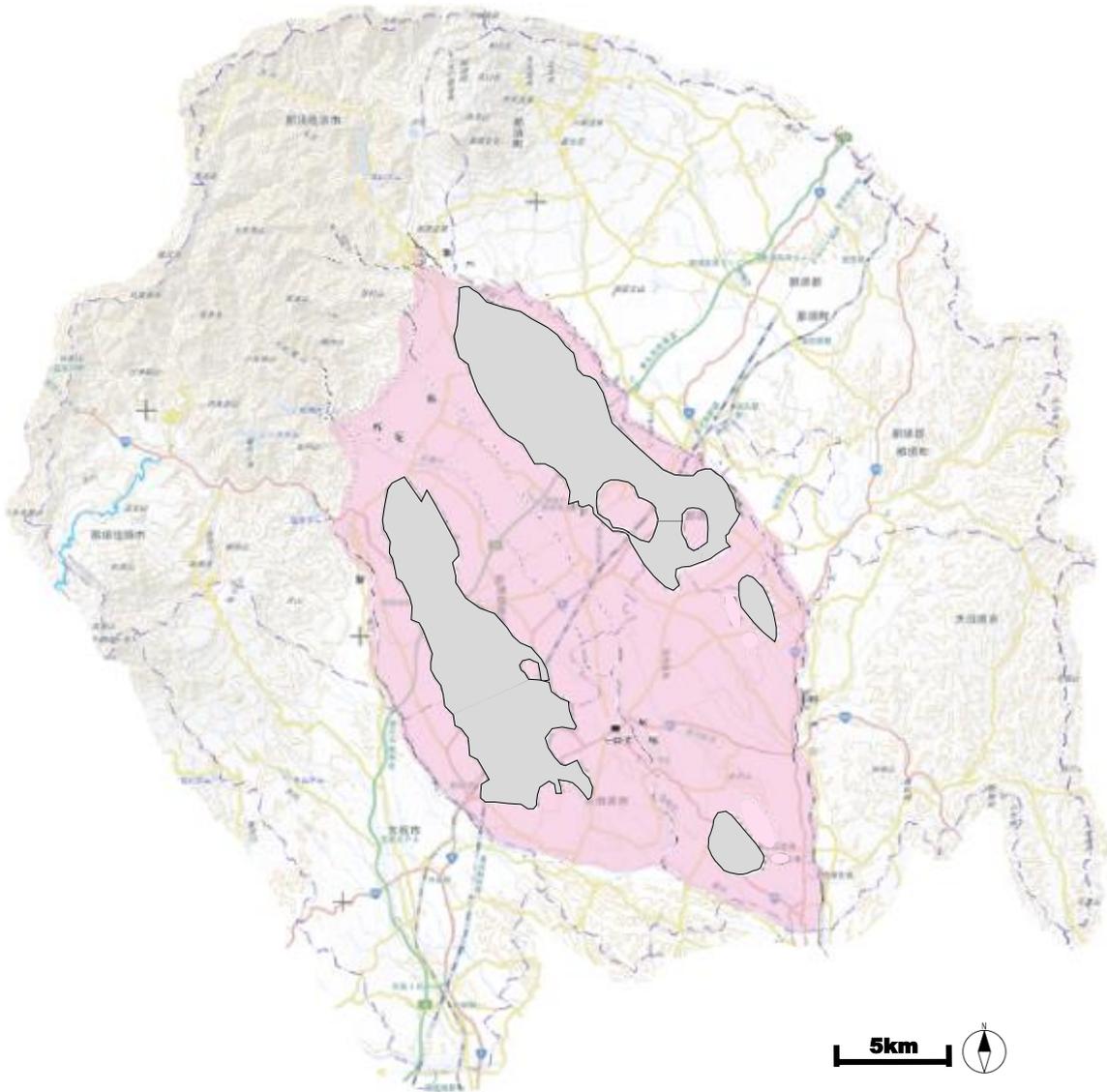
(様式 1-1)

① 申請者	◎那須塩原市、矢板市 大田原市、那須町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
明治貴族が描いた未来 ～那須野が原 ^{なすの ほん} 開拓浪漫譚～			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>わずか140年前まで人の住めない荒野が広がっていた日本最大の扇状地「那須野が原」。</p> <p>明治政府の中枢にあった貴族階級は、この地に私財を投じ大規模農場の経営に乗り出します。</p> <p>近代国家建設の情熱と西欧貴族への憧れを胸に荒野の開拓に挑んだ貴族たち。その遺志は長い闘いを経て、那須連山を背景に広がる豊饒^{ほうじょう}の大地に結実しました。</p> <p>ここは、知られざる近代化遺産の宝庫。那須野が原に今も残る華族農場の別荘を訪ねると、近代日本黎明期の熱気と、それを牽引した明治貴族たちの足跡を垣間見ることができます。</p>			
		 <p data-bbox="992 1303 1337 1332">やまがたありとも たいれいふく 山縣有朋記念館に展示された大礼服</p>  <p data-bbox="992 1579 1337 1608">おおやまいすお 大山巖が使用した馬車</p>	
那須野が原の大パノラマの中に佇む松方別邸 ^{まつかた}		大山巖 ^{おおやまいすお} が使用した馬車	

市町村の位置図(地図等)



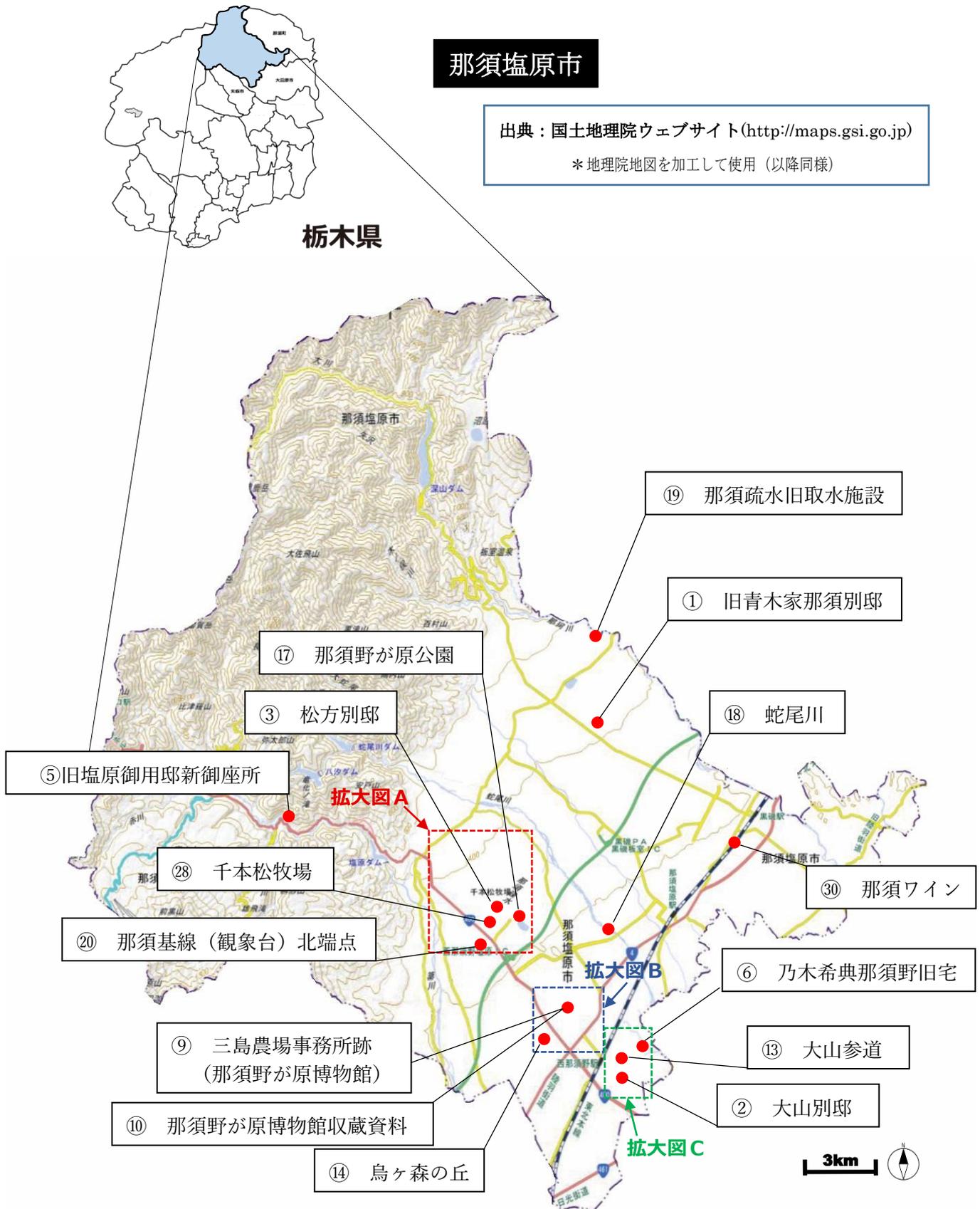
那須野が原位置図



凡例

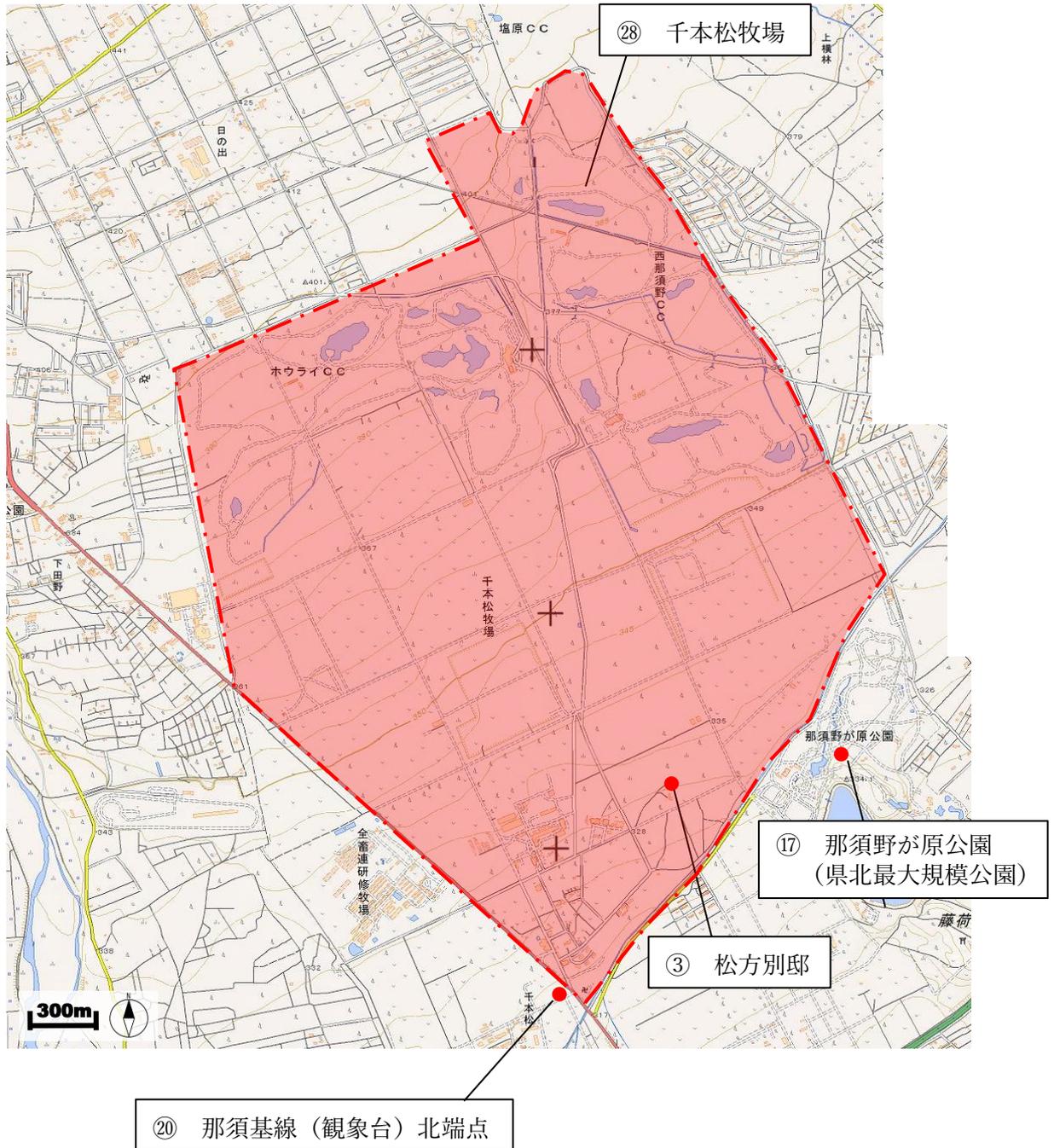
- | | | |
|---|-------------------|-----------|
|  | 那須野が原範囲 (扇状地) | 面積 4 万 ha |
|  | 明治初年における扇状地内の未開拓地 | 面積 1 万 ha |

構成文化財の位置 (地図等)



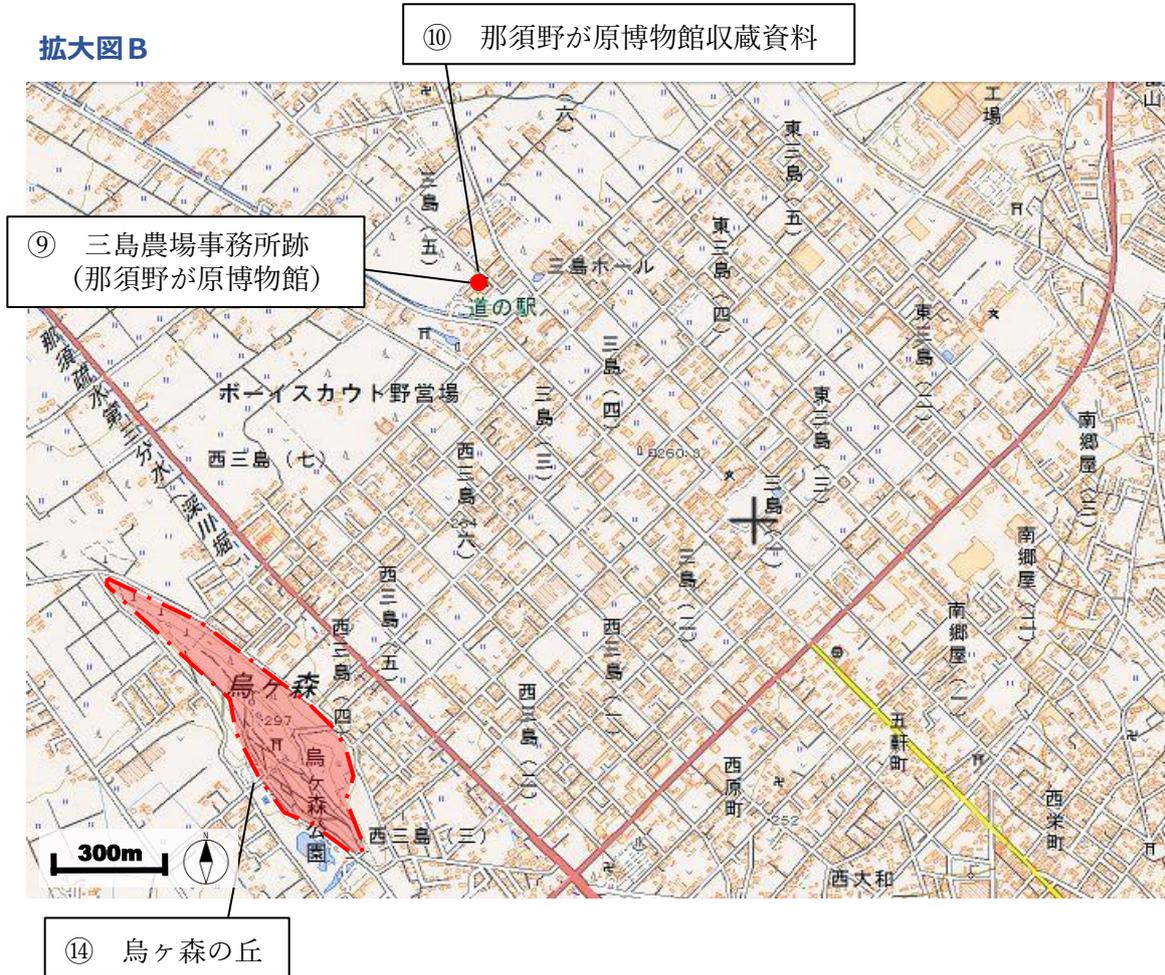
構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 A



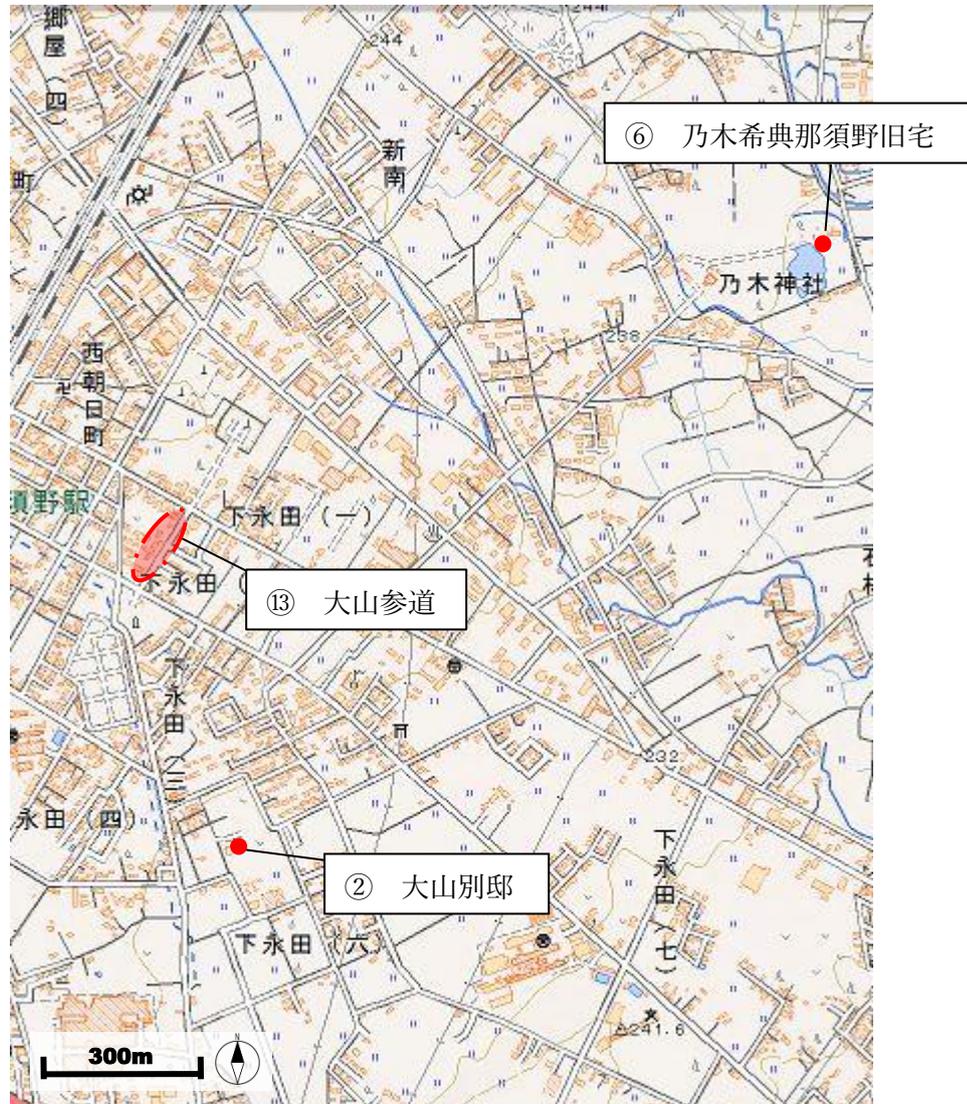
構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 B



構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 C



構成文化財の位置(地図等)

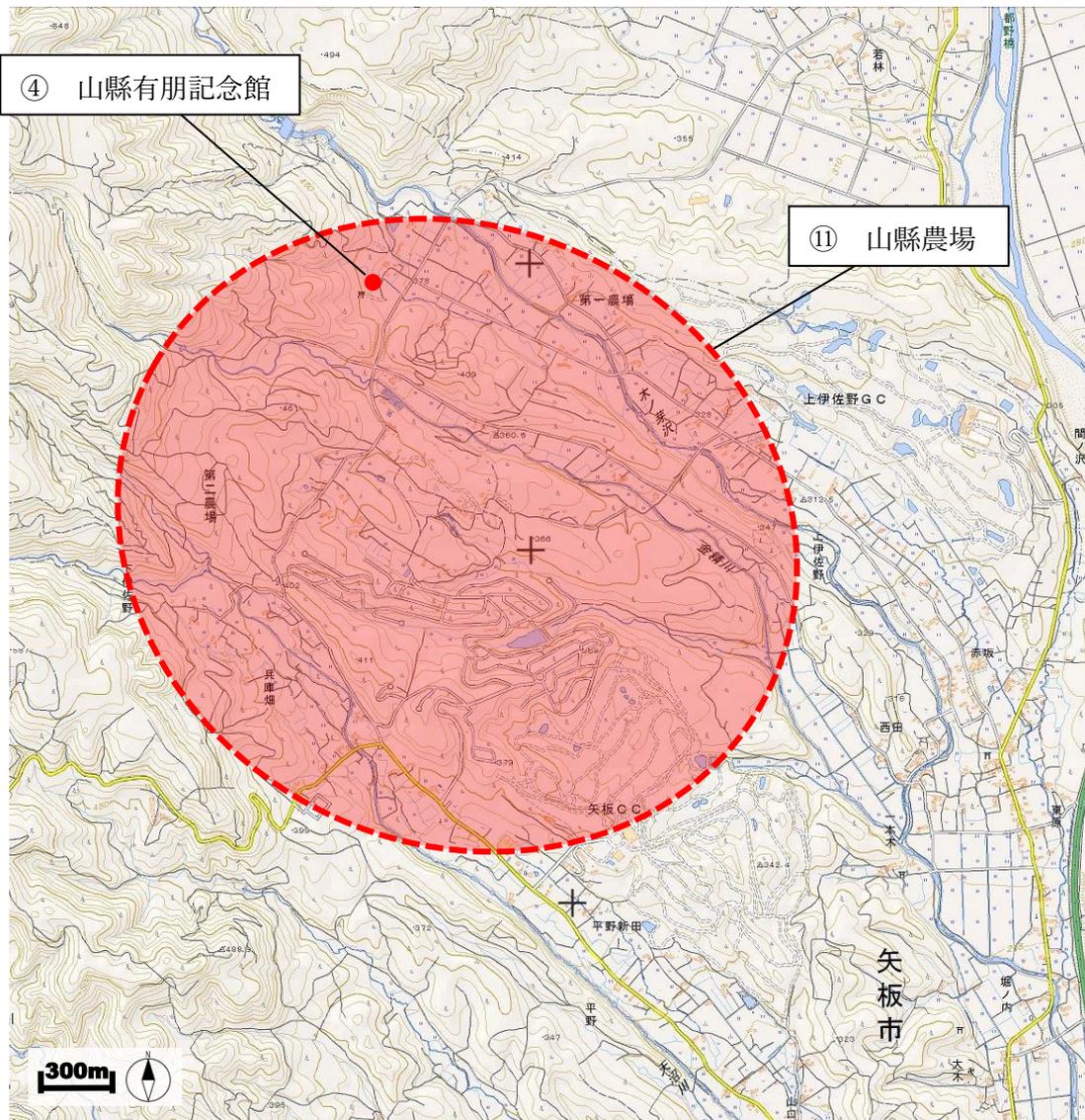


構成文化財の位置(地図等)



構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 E



構成文化財の位置(地図等)



構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 F



ストーリー

【那須野が原に残る明治の余韻】

長い杉並木を抜けると視界は一気に開け、青空の下にその建物は全貌を現します。中央に物見台を戴くホール棟、左右に羽を広げたように延びる棟にテラスを配した白亜の洋館は、近づくると、壁一面が鷲型の白いスレートで飾られ、屋根に張り出した採光窓が、ユニークな凹凸を描き出しています。まるで映画の一場面のように、いまにも日傘を手に貴婦人が姿を現しそうなその建物は、明治政府で外務大臣を務めた青木周蔵子爵が残した別荘です。このほかにも、様々な趣向を凝らし広大な敷地を有する別荘が周囲の喧騒とは無縁に点在する場所が、関東地方の北端に存在します。



青木農場跡に建つ別荘

栃木県北部に位置する日本最大規模の扇状地「那須野が原」には、明治から昭和にかけて大規模農場がひしめき合った時代がありました。別荘群は、当時の面影をいまに伝える貴重な生き証人です。これらの「大規模農場と別荘」を作り上げたのは、明治維新を牽引した元勳や明治政府の要職を歴任した貴族たち…いわゆる「華族」でした。そして、これら華族農場の成立の背景には、明治政府が推し進めた政策が大きく関わっていました。



山縣農場内に建つ別荘

【水の無い大地を拓く～華族農場の成立】

首都東京からわずか150kmに位置するこの地は、明治初年まで人の住めない不毛の原野でした。那須野が原の広さは約4万ha。中央部は土砂や火山岩が厚く堆積し、真ん中を縦断する蛇尾川・熊川は、水が地下に浸透してしまうため約10kmにわたり水の無い川となります。いまでも場所によっては車で横断することが可能な蛇尾川の河床に降り立つと、ゴロゴロと足元に転がる石や流木が、「手にして掬う水も無し」と詠われた時代の風景を容易に想像させます。



水の無い蛇尾川

しかし、この「極めて平坦な大地」は西洋列強に対抗し殖産興業政策を掲げた政府に開拓地として注目され、その実現に向けて、華族階級が出資する農場が、明治13年から20年代にかけ、次々と開設されました。



明治17年から醸造されているワイン

これら華族農場では、大々的に西洋式大規模農法が取り入れられ、開墾と牧畜、植林を中心とする様々な試みが行われました。ブドウ栽培の着手も早く、明治17年には既にワインの醸造が行われ、農場主たちの食卓を彩りました。それは、あたかも首都における欧化政策の象徴「鹿鳴館」と同様、開拓地における西洋文化導入の実践場というべきものでした。あるいは彼らの行動の基盤には、若き日の留学先で目にした欧州貴族の生活とそれを支えた荘園経営への強い憧れがあったのかもしれない。

華々しく展開された華族農場ですが、荒れた大地の開墾は容易ではなく、多くの農場は、採算を度外視した農場主の私財の投入によりかろうじて維持されていました。その理由は、新国家建設への情熱もさることながら、何よりこの土地への深い愛着によるものでした。何人かの農場主は自ら望んでこの地に葬られ、それ以外にも多くの農場主が、死後その名を冠した神社に祀られています。彼らの

情熱に突き動かされ、那須野が原は徐々にその姿を変えていきます。

【華族農場がもたらした景観】

華族たちが試みた大規模農場の代表格は、大蔵大臣や総理大臣を歴任した松方正義公爵の「千本松農場」です。松方は水利に乏しい土地には欧米風の大農法が最適であると信じ、西洋農具を導入し広大な土地を開墾、その総面積は最盛期には1,600haに達しました。現在も800haの敷地を有する千本松牧場には、広大な放牧場と飼料畑、平地林が連なり、往時の姿をいまに伝えています。その一角に建つ別荘は、南に全面ガラス窓のサンルームを配した総2階の建物で、1階正面は大谷石で飾り、一見すると石造建築を思わせる重厚さを漂わせています。

人の住めない原野に農場を開いた華族たちは、人を呼び込む新しい「まち」も作り上げていきます。彼らの権力は鉄道や国道を開拓地に引き込み、農場内は正確に区画整理されて、開拓に携わる移住者を迎え入れました。

開拓に欠かせない水の確保のため、「那須疏水」が開削されたのは明治18年のことです。那珂川から取り入れられた水は那須野が原を横断し、4本に分かれて大地を潤し、その流れの先には必ず華族農場がありました。そこから支線が毛細血管のように走り、開墾により開かれた田にいまも水を注ぎ続けています。

【「華族たちの夢」から「酪農王国」へ】

華族農場に始まる開拓事業は、明治から昭和へと時を経て、戦後の開拓団に引き継がれました。舞台はかつて開拓には不向きとされた丘陵地へと移り、旧軍用地、国有林などが拓かれ、那須野が原の未開地は塗りつぶされていきました。

明治期から導入されていた牧畜の主流は、羊から乳牛へと代わり、技術革新による生産性の向上でその規模は徐々に拡大、やがてこの地は生乳生産本州一を誇る大酪農地帯へと成長していきます。

那須野が原を横断する県道を走ると、扇状地であるがゆえの、平らな大地に連なる緑の牧場と平地林、その背後にそびえる那須連山の雄姿が織りなすパノラマを楽しむことができます。そこに荒野の面影はありません。それは明治から途切れることなく続く開拓の歴史が作り上げたもの。伝統的な日本の農村風景とは一線を画した雄大な景観です。

いま、この地を訪れる人々は、四季折々の美しさに触れ、自然の中に遊び、大地の恵みを味わうことができます。その傍らで、各所に点在する別荘は、凜とした静寂に包まれながらも、かつての農場主たちが抱いた欧州文化への強い憧れと、彼らが思い描いた近代国家建設の情熱とを静かに語りかけてきます。

訪れる人々を、柔らかな高原の風と、かつて明治貴族が繰り広げた濃密な浪漫ものごたまりをもって迎え入れる場所、それが那須野が原です。



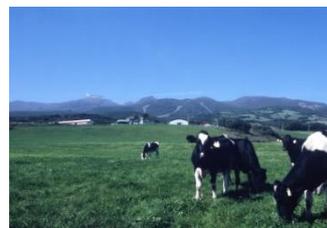
千本松農場跡に建つ別荘



碁盤の目のように区画されたまち



那須野が原に水を運ぶ那須疏水取水口



那須高原に広がる牧草地



青木邸から望む杉並木

情熱とを静かに語りかけてきます。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	きゅうあおきけな すべってい 旧青木家那須別邸	国重文 (建造物)	那須野が原に展開された華族農場における別荘文化を象徴する建物です。 青木周蔵(子爵・外務大臣)はドイツ翁と呼ばれるほどのドイツ通で、自身の農場内に明治21年(1888)にドイツ様式の別荘を建設しました。 青木子爵はこの別荘を訪れるときには、黒磯駅から馬車で向かったと伝えられています。	那須塩原市
②	おおやまべってい 大山別邸	県有形 (建造物)	大山巖(公爵・元帥)が自身の農場内に建てた別荘で、当初は和風別荘が建てられ、その後、農場内で焼いたレンガを利用した素朴で重厚な造りの洋館が増築されました。	那須塩原市
③	まつかたべってい 松方別邸	未指定	松方正義(公爵・内閣総理大臣)が自身の農場内に、明治36年(1903)に建てた別荘です。現在も広大な敷地を擁する千本松牧場内にあり、当時の姿を色濃く残しています。	那須塩原市
④	やまがたありともきねんかん 山縣有朋記念館	県有形 (建造物)	明治42年(1909)、山縣有朋(公爵・内閣総理大臣)晩年の別荘として知られる小田原古稀庵に建てられた洋館です。設計者は、建築史学者の伊東忠太。大正12年(1923)の関東大震災で崩壊したため、翌年山縣農場内に移築されました。	矢板市
⑤	きゅうしおばらごようていしんござしよ 旧塩原御用邸新御座所	県有形 (建造物)	三島通庸(子爵・警視総監)が塩原温泉郷に建築した別荘が、明治36年(1903)に皇室に献上されたものが前身となっています。昭和56年(1981)に新御座所の部分のみ現在の場所に移築されました。	那須塩原市
⑥	のぎまれすけな すのきゅうたく 乃木希典那須野旧宅	県史跡	乃木希典(伯爵・陸軍大将)が明治25年(1892)に自ら設計した、農家風の質素な別荘です。乃木將軍は生涯4度休職しましたが、多くの時間をこの別荘で過ごしました。敷地内には乃木將軍を祀る乃木神社があります。	那須塩原市
⑦	やいたたけしきゅうたく 矢板武旧宅	市史跡	開拓と那須疏水開削に尽力した矢板武の旧宅です。現在は記念館として整備され、那須野が原開拓等に関する資料を展示・保管しています。	矢板市
⑧	やまだのうじょうじむしよあと 山田農場事務所跡 やまだしりょうかん (山田資料館)	未指定	山田顕義(伯爵・司法大臣)の農場事務所跡です。山田農場及び山田家ゆかりの資料が展示されています。	那須町
⑨	みしまのうじょうじむしよあと 三島農場事務所跡 なすの はらほくぶつかん (那須野が原博物館)	市史跡	三島通庸(子爵・警視総監)の農場事務所跡地です。現在は「那須野が原博物館」が建ち、常設の展示室では様々な資料と模型により、那須野が原の開拓と華族農場の展開についての知識を得ることができます。	那須塩原市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑩	なすの ほらはくぶつかん 那須野が原博物館 しゅうぞうしりょう 収蔵資料	市有形、他	日本近代洋画の祖、高橋由一作《鑿道八景》や、那須野が原開拓に纏わる『那須開墾社関係文書』、『那須疏水関係文書』等が保管されています。	那須塩原市
⑪	やまがたのうじょう 山縣農場	未指定	明治19年(1886)に山縣有朋(公爵・内閣総理大臣)が開墾した農場跡です。現在も「第一農場」「第二農場」という名称が行政区として存続しています。	矢板市
⑫	さいごうじんじゃ 西郷神社	未指定	西郷隆盛の弟、西郷従道(侯爵・元帥)を祀る非常に珍しい石製の神社です。西郷侯爵は、明治34年(1901)に従兄弟の大山巖公爵と共同経営していた加治屋開墾場を分割し、西郷農場を営営しました。西郷侯爵没後、農場地内に本神社が建立されました。	大田原市
⑬	おおやまさんどう 大山参道	市記念物	大山巖公爵は大正5年(1916)に亡くなりましたが、本人の遺志により、遺体は那須野が原の農場内に葬られました。参道は、大正6年(1917)に、宮内省技師の設計により整備されました。	那須塩原市
⑭	からすがもり おか 烏ヶ森の丘	市史跡	明治18年(1885)那須疏水開削の起工式が挙行された場所で、丘の上からは三島通庸が農場内を区画整理した「碁盤の目」と呼ばれる街並みを見渡すことができます。	那須塩原市
⑮	ひらたとうすけ はか 平田東助の墓	未指定	品川弥二郎から譲渡された傘松農場を営営し、信用組合(産業組合、現在の農協など)の礎を築いた平田東助(伯爵・内大臣)の墓碑です。	大田原市
⑯	こてやさんりょくちこうえん 御亭山緑地公園	未指定	那須野が原東部に位置する標高512.9mの山で、山頂は公園として整備されており、那須野が原を一望できる景勝地となっています。	大田原市
⑰	なすの ほらこうえん 那須野が原公園 けんぼくだいきぼこうえん (県北大規模公園)	未指定	当時の原生林が残る旧千本松農場、旧三島農場にまたがる位置に整備された県営の大規模公園です。総面積は約57haで、当時の面影を残す自然林と丘陵を活用し、那須野が原や那須連山の眺望を楽しむことができます。	那須塩原市
⑱	さびがわ 蛇尾川	未指定	大佐飛山・日留賀岳方面を源流とする全長41.1kmの河川です。那須野が原扇状地の扇中部で伏流し約12km下流で地表に現れるため、雨期を除き延々と水のない河床が続き、所々車で横断できる場所もあります。	那須塩原市内 (伏流部)
⑲	なすそすいきゅうしゅすいしせつ 那須疏水旧取水施設	国重文 (建造物)	那須野が原の灌漑を目的とし、明治18年(1885)に国営事業として開削された那須疏水の取水施設の遺構であり、那須野が原開拓事業の象徴的施設です。	那須塩原市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑳	なすきせん かんしょうだい 那須基線 (観象台)	北端点 市指定 南端点 未指定	明治11年(1878)に設けられた測量基準線の北端点と南端点です。2点間の距離は約10.63km。当時この区間に障害物が一切なく、2点を結んだ「たて道」と呼ばれる、本州一長い直線道路が南北に走ります。	那須塩原市 大田原市
㉑	きゅうくろだはらえきしゃかわら 旧黒田原駅舎 瓦	未指定	明治19年(1886)に宇都宮～白河間の鉄道が開通しましたが、当初の計画を変更して、開拓地を縦断するルートが取られました。山田農場の一角に、旧黒田原駅は明治24年(1891)開業しました。駅舎は老朽化により取り壊され、その名残の瓦が、現在那須歴史探訪館に展示されています。	那須町
㉒	しゃおん ひ 謝恩碑	未指定	明治24年(1891)に山田農場を開いた、山田顕義(伯爵・司法大臣)及び山田家への謝意を記した碑です。昭和30年(1955)建立されました。	那須町
㉓	たくこん ひ 「拓魂」碑	未指定	「戦後開拓」としての金丸原開拓の歴史と開拓初代の氏名を記す記念碑で、昭和51年(1976)に金丸原開拓農業協同組合により建立されました。碑の立つ敷地には旧金丸原開拓農業協同組合事務所があり、金丸原開拓の拠点でした。	大田原市
㉔	かいたく ひ 「開拓」碑	未指定	那須野が原北部の未開地には、戦後、旧軍人や満州からの引揚者が入植し痩せた大地を開墾しました。雄大な那須岳を望む千振開拓地に建つ記念碑には、厳しい開拓の様子が刻まれています。	那須町
㉕	おおたわらしれきしみんぞくしりょうかん 大田原市歴史民俗資料館 しゅうぞうしりょう 収蔵資料	未指定	大正14年(1925)に作図された『傘松農場土地台帳図』や『傘松農場事務所』関係の図面などが保管されています。	大田原市
㉖	おおたわらしおやほうぼくじょう 大田原市大野放牧場	未指定	大田原市宮牧場で、牧区面積は約27haあります。明治期には御料地でしたが、後に陸軍演習場用地となり、戦後は「金丸原開拓」として開拓が進められました。	大田原市
㉗	なすまきしょうどうりようもほんぼくじょう 那須町共同利用模範牧場	未指定	那須連山の東南斜面、酪農乳用牛の効率的な育成を目的として、戦後開拓により作られた、敷地330haを有する放牧場で、現在の那須の風景を象徴しています。	那須町
㉘	せんぼんまつぼくじょう 千本松牧場	未指定	明治26年(1893)に松方正義が開設した農場で、最盛期は約1587haの広さを誇っていました。現在は観光農場として観光客を迎え入れますが、800haに及ぶ敷地は、当時の面影を色濃く残します。	那須塩原市
㉙	みなみがおかぼくじょう 南ヶ丘牧場	未指定	昭和24年(1949)、満州からの引揚者が入植した地域で、満州で培った畜産の知識と経験を生かし、入植当時から酪農を生産基盤とすることを見据えていました。	那須町

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑩	なす 那須ワイン	未指定	渡邊葡萄園は明治17年(1884)に創業された、ブドウ作りから一貫して行う国内でも最も古いワイナリーの一つです。日本固有種のマスカットベリーAを用いて、創業以来変わらぬ製法で生産されています。生前の乃木将軍が愛飲したといい、今も乃木神社に奉納されています。	那須塩原市
⑪	やいた 矢板のリンゴ	未指定	矢板市は、標高の低い土地でリンゴが生産できる南限といわれ、現在は18のリンゴ園が盛んに生産しています。大正3年(1914)、山縣有朋が青森県から技師を呼び苗木を植栽したのが始まりとされます。	矢板市

(様式 3 - 2)

構成文化財の写真一覧

①旧青木家那須別邸



②大山別邸



③松方別邸



④山縣有朋記念館



⑤旧塩原御用邸新御座所



⑥乃木希典那須野旧宅



⑦矢板武旧宅



⑧山田農場事務所跡（山田資料館）



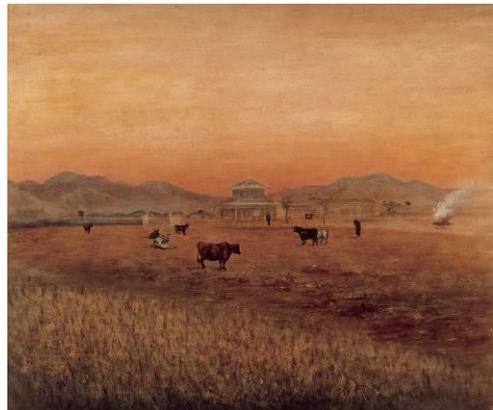
⑨三島農場事務所跡（那須野が原博物館）



⑩那須野が原博物館収蔵資料

（高橋由一作《鑿道八景》より

《第八景 三島牧場》）



⑪山縣農場



⑫西郷神社



⑬大山参道



⑭烏ヶ森の丘



⑮平田東助の墓



⑯御亭山（こてやさん）緑地公園



⑰那須野が原公園
(県北大規模公園)



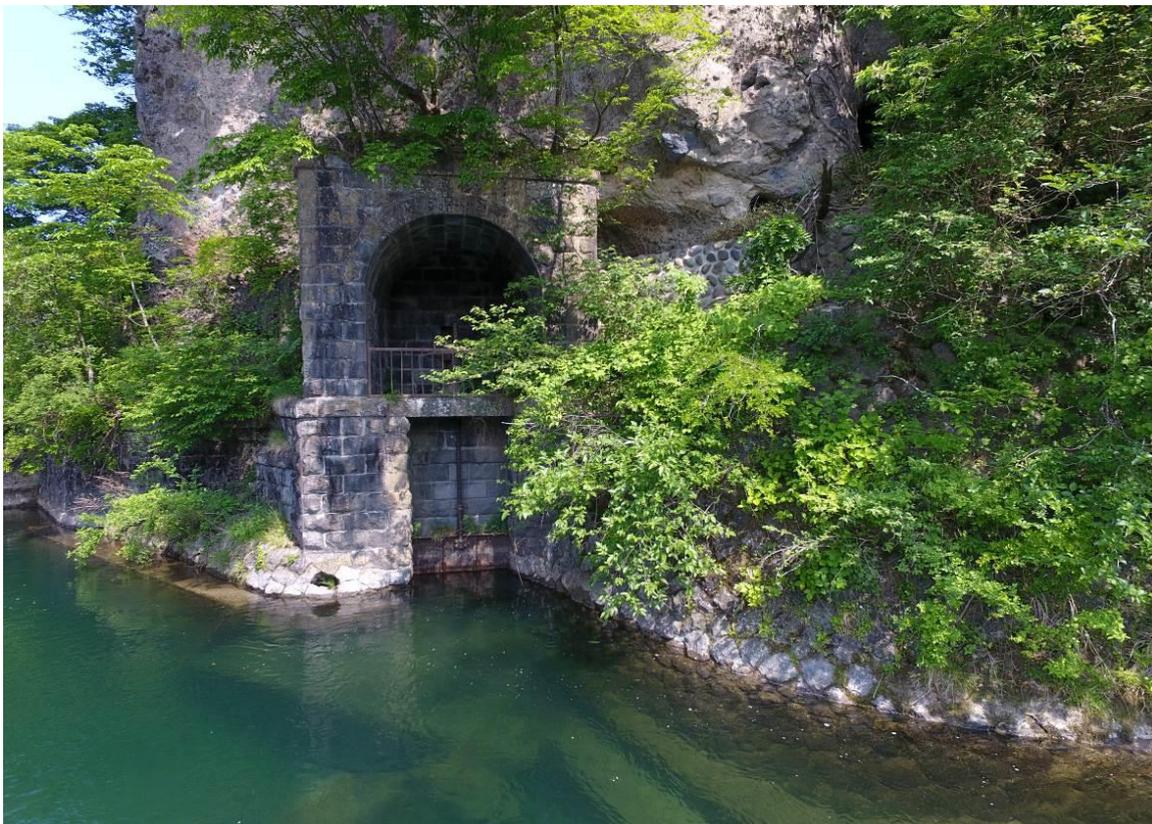
⑱蛇尾川



(蛇尾川の川底を横断する自動車)



⑱那須疏水旧取水施設



⑳那須基線（観象台）

北端点



南端点



㉑旧黒田原駅舎瓦



㉒謝恩碑



㉓「拓魂」碑



㉔「開拓」碑



②⑤大田原市歴史民俗資料館収蔵資料



②⑥大田原市大野放牧場



②⑦那須町共同利用模範牧場



⑳千本松牧場



②⑨南ヶ丘牧場



③⑩那須ワイン



③1 矢板のリンゴ



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

【将来像】 明治からの開拓がつなぐ人と文化と食がもてなす回遊性の高い広域観光地「那須野が原」

那須塩原市、大田原市、矢板市、那須町の4市町を含む那須野が原には、明治以降にそれまでは未開の原野であったこの地を現在の豊かな地へと導いた開拓の姿を象徴する資産群が点在しています。日本遺産の認定を機にこのエリア「那須野が原」をブランド化し、観光地としての魅力を高め、地域全体の活性化に寄与するため、市町の総合計画や観光基本計画、歴史文化基本構想等に事業を位置付け、長期的に取り組んでいきます。

・「人と文化と食がもてなす」： 地域住民が、現在のこの地を支える一次産業の礎となった開拓の歴史を理解し、食とその歴史・文化を結びつけてその魅力を伝えることができる体制を構築しながら、郷土愛を培い、文化資産の保護活用を図り、次世代に引き継ぎます。

・「回遊性の高い広域観光地」： 日本遺産となる「歴史・文化」と、周辺に備わる主要な観光資源である「温泉・自然」や、「食」を一体的に味わうことができる、心に残る、回遊性の高い広域観光地を目指します。

(2) 地域活性化のための取組の概要

【目的】

那須野が原周辺的那須地域は、那須温泉・塩原温泉・板室温泉等の名湯と四季折々の自然を有し、古くから観光地として知られています。また、豊かな自然に囲まれ、新鮮な水と空気ですくもった農産物は、地域のブランドとしてその価値を高めています。那須地域の観光地としてのイメージは、温泉地やロイヤルリゾートであり、高原や山間部が観光エリアの中心でした。今後、日本遺産となる構成文化財が点在する那須野が原についても、歴史・文化という視点で新たな平野部の観光エリアとしての磨き上げを進め、既存の観光エリア（高原・山間部）との回遊性を高め、地域全体の魅力向上により国内外からの観光客を集客し、経済効果を高めます。

また、魅力の向上への取り組みに関しては、これまで各市町で取り組んできた生乳生産本州一を活かしたまちづくりや、農業体験を取り入れたグリーン・ツーリズム、自転車競技のプロチームと連携したサイクルツーリズム、那須野が原田園空間博物館事業などの地域活性化の取組を生かしながら、既存のまちづくり団体等と連携し、地域全体の活性化を図ります。

【事業全体の取組の概要】

①郷土愛とシビックプライドを育むため、地域住民の理解を広めまちづくりへの参画を促進します。

(人材育成、普及啓発)

地元ボランティアや観光団体等と連携したガイド養成等の人材育成を行うことにより、住民の郷土愛を培い、シビックプライドの醸成を図り、日本遺産を通じたまちづくりへの参画を促します。育成されたガイドによる心を込めた案内により、おもてなしの地域としての観光客のイメージアップを図るとともに、施設での案内や有料バスツアー等での活用を図ります。地元を中心とした普及啓発を図るため、記念講演会の開催や、地元紙等への記事掲載を行います。また、メイン拠点である那須野が原博物館での企画展や、市民大学講座等による普及啓発を進めます。

②地域のブランド化を図るため、日本遺産の那須野が原として魅力を発信します。

(情報発信・コンテンツの開発)

■効果的な魅力発信及びツアーの造成等のための各種調査の実施

那須野が原を行ってみたい・再訪したい観光地に磨き上げるため、観光関連団体と連携し、国内外に対するマーケット調査・観光客の行動分析調査・モニターツアーによるアンケート調査等を実施し、モデルコース作成や広告宣伝、案内板の表記等の環境整備に、調査結果を生かします。

■国内向け情報発信

メインターゲットは首都圏(交通アクセス面やマーケット規模から、効率的・効果的なプロモーション先に選定)とし、HPや動画配信、メディアへの記事や広告掲載等により、日本遺産を軸とした地域内の魅力や楽しみ方を発信します。また、広告記事掲載やイベントでのPR等により、観光関連団体や栃木県等と連携してプロモーション活動を行うことで、効果的・継続的な魅力発信を行い、日本遺産の那須野が原として認知度を高め、地域のブランド化を図ります。

■国外向け情報発信

メインターゲットはオーストラリア(欧州はストーリーと関係が深く、歴史・文化に関心が高い。那須塩原市とは構成文化財である旧青木家那須別邸の縁からリンツ市と姉妹都市提携を結んでいるほか、2020東京オリンピック・パラリンピックでは同国のホストタウン交流計画が認定されている。)とし、Webサイト・SNSや、関連事業(姉妹都市交流、オリパラ交流)を生かした情報発信を行います。

③誰もが歴史・文化を感じることができる地域とするため、受入環境を整備します。(環境整備)

・「那須野が原博物館」をストーリー全体を知ることができる日本遺産のメイン拠点として、電子案内板や音声ガイド、模型・パネル等により、受入環境を整備します。

・各構成文化財については、施設の修繕や周辺環境・案内板等の整備のほか、来訪者の多い文化財やストーリー上の重要拠点を中心に、観光スポット・体験ポイントとしての活用や整備を進めます。

・人の交流拠点であり、エリア内に点在する道の駅や観光案内所等を、情報発信拠点として活用・整備を進めます。

・携帯アプリ等を活用したナビゲーションや多言語対応を行うとともに、音声ガイド、動画コンテンツ及びバーチャル体験コンテンツを活用することで、誰もが日本遺産を感じる環境を整備します。また、バーチャル体験コンテンツを作成することで、現在の文化財をデータとして後世に残します。また、観光・文化財関連団体や旅行会社の意見をもとに作成した周遊コースを盛り込み、訪れた個人旅行者に対し、日本遺産那須野が原の楽しみ方を提案します。

④地域内の資源を最大限に生かして観光地としての魅力を高めるため、地域内の農畜産物、温泉や自然等と文化財を連携させ、一体的に味わえる観光振興を行います。(普及啓発)

学校や企業、農業団体や観光団体等の多様な住民等が関わり、開拓の歴史により那須野が原の基盤産業となった農畜産業による産物の消費拡大や、温泉や自然などの既存の観光資源、開拓の歴史を象徴する文化財等を連携させたイベントや、着地型旅行商品等の開発を進めます。

(3) 自立的・継続的な取組

那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会は、当初3年間は中心となって事業を推進しながら事業の定着を図ります。4年目以降は総務的事業を除き、関係団体や施設等のプラットフォームとしての役割に移行できるよう進めます。

那須塩原市の観光振興の中核機関であり、現在DMOとしての機能充実を図っている那須塩原市観光局（旅行業登録）と連携し、有料での周遊ツアーなどの着地型商品開発に取り組みます。また、日本遺産を、地域観光プロモーションや品質管理事業のメニューに組み込み活用できるよう連携します。

新たな組織を立ち上げるのではなく、現在活動中のボランティア団体や、観光団体、行政機関（博物館・資料館）との連携で事業を進めていくことで確実な地域への定着を図り、補助期間経過後は各団体や施設等が主体としての事業に移行できる形での取り組みを進めます。

(4) 実施体制

【協議会】 名称：那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会
 構成団体：構成市町（那須塩原市、大田原市、矢板市、那須町）、
 文化財関連団体（那須野ヶ原土地改良区連合、那須疏水土地改良区、那須文化研究会、
 那須野が原西部田園空間博物館運営協議会、ふるさとを知る会）
 産業関係団体（各市町商工会、大田原商工会議所、各市町観光協会、那須野農業協同組合）
 4市町の関係部局（文化振興担当課、商工観光担当課）・文化財関連団体や観光産業関連団体から選出された者で構成する協議会が、最終決定機関として、事業計画や予算・決算の認定、進捗管理を行います。
 （事務局：那須塩原市）

※実行組織として、協議会とは別にワーキンググループを編成。協議会の決定に沿った具体的事業を検討・実行するとともに、事業計画策定時には協議会への事業提案を行う。ワーキンググループの運営については、核となる団体等から選出したリーダーを中心に、那須塩原市（生涯学習課、商工観光課）が事務局となって、グループ間の調整も行いながら事業を推進します。

- 文化振興グループ（リーダーは那須野が原博物館、事務局は那須塩原市生涯学習課）
 人材育成・施設整備部会：ガイド養成や講演会の人材育成や、拠点の整備・案内板の設置等を担当。
 ボランティアガイド・文化財関連団体、施設関係者等のメンバーで構成。
- 観光振興グループ（リーダーは那須塩原市観光局、事務局は那須塩原市商工観光課）
 調査研究・情報発信部会：マーケティング及びモニターツアー等の調査研究、パンフレットや動画制作等のPR媒体及び情報発信等の誘客促進に向けたプロモーションを担当。
 観光団体、観光行政担当者、文化振興グループリーダー及び事務局等で構成。
- 普及啓発部会：食との連携事業や体験メニュー等の開発を担当。
 観光団体・商工団体・農業団体等の担当者、行政（観光・農業）担当者等で構成

※その他の連携体制（広域連携等）

- 本物の出会い栃木推進キャンペーン協議会（那須地域分科会）
 那須地域5市町の行政・観光関連団体と栃木県等で構成する当協議会の観光宣伝や魅力アップ事業と連携します。
- 広域連絡会議（那須地域）
 那須地域5市町の行政・観光商工関連団体と栃木県等で構成する当会議のインバウンド受入体制づくりと連携します。
- 教育分野等との連携
 地元の学校・学生等との連携した事業を実施することで、地域文化への理解と愛着を深めるとともに、魅力発信やイベント等への協力体制構築により、本計画の充実を図ります。

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

定量的評価：別紙①のとおり

期待される効果：	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の地域文化に対する関心の向上による、住民の力による地域の文化財保護や活用、次世代への継承が図られます。 ・構成4市町での連携強化や観光振興・文化振興の広域化が図られ、多様な観光客に対応できる観光地域づくりへの寄与、周遊効果が高まります。 ・主要な観光目的である温泉や自然に加え、特徴的な歴史文化が観光資源として活用されることで、他地域との差別化や、発信力・回遊性の向上が図られ、満足度向上やリピーターの増に繋がります。 ・商業や農業など産業全体との連携を図ることで、文化・観光資源を、地域産業全体の活性化に繋がります。 ・インバウンド事業は今までアジア中心であったが、構成文化財である旧青木家那須別邸の縁で那須塩原市が姉妹都市交流を行うリンツ市のあるオーストリアをメインターゲットとすることで、欧州をターゲットとする「日光国立公園満喫プロジェクト」及び、ハンガリー（栃木県）やオーストリア（那須塩原市）をターゲットとする「オリンピック・パラリンピックホストタウン交流計画」など、欧州をターゲットとした事業との相乗効果が高まります。
----------	--

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

別紙②のとおり

補助金額：	平成30年度：	56,299千円	平成31年度：	14,930千円	平成32年度：	6,160千円
-------	---------	----------	---------	----------	---------	---------

(7) その他事業

別紙③のとおり

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標：	観光客入込み数 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度	20,970 人	⇒ 平成 35 年度 22,260 人
設定根拠：	過去3年の平均伸び率0.8%に対し、毎年1%の増加を設定		
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化		
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	アンケート調査結果(地域への愛着を感じる住民の割合)		
目標値：	平成 29 年度	未把握 %	⇒ 平成 35 年度 65 %
設定根拠：	住民の3人中2人が地域への愛着を感じる割合を設定。		
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	地元事業者等による日本遺産関連のツアー等の商品・サービス数		
目標値：	平成 32 年度	10	⇒ 平成 35 年度 16
設定根拠：	補助金がある32年度までに商品等開発を行い、10件のツアー等を実施し、その後毎年20%の増加を設定		
設定目標Ⅳ：			
計画評価指標：	(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	(具体的な指標を記載してください。)		
目標値：	平成	年度	⇒ 平成 年度
設定根拠：			

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①：郷土愛とシビックプライドを育む人材育成事業			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：1,250千円 教本@1,250×1,000冊=1,250千円	平成31年度：300千円 基礎講座開催用事務費・諸経費 100千円 現地研修バス代@100,000×2回= 200千円	平成32年度：310千円 応用講座開催用事務費・諸経費 100千円 現地研修バス代@100,000×2回= 200千円 ガイド登録用事務費10千円
(積算)			
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度 日本遺産ガイド養成のための教本の制作 ○ 平成31年度 ・基礎講座として日本遺産の基本的な知識を学ぶ講座の実施 ・地元ガイドと連携した日本遺産講座の開催、出前講座等 ○ 平成32年度 ・応用講座として日本遺産のガイドとして実践的な知識を学ぶ講座の実施 ・地元ガイドと連携した日本遺産講座の開催、出前講座等 		
評価指標区分：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	年間の日本遺産ガイド活動人数		
目標値：	平成 29 年度	0 人	⇒ 平成 35 年度 30 人
事業②：日本遺産の普及啓発を促進する講演会開催事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：2,045千円 記念講演委託2,045千円	平成31年度：0千円	平成32年度：0千円
(積算)			
事業概要：	日本遺産認定を記念した講演会の開催及び開催告知と併せた地元紙等への記事掲載		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	地域住民を対象としたアンケート調査における日本遺産の認知度		
目標値：	平成 30 年度	基準値 %	⇒ 平成 35 年度 50%増 %
事業③：魅力ある商品開発に向けたマーケティング事業			
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：4,542千円 マーケティング調査 (認知度及びニーズ調査) 2,382千円 観光客の動向分析調査 2,160千円	平成31年度：0千円	平成32年度：600千円 マーケティング調査 (満足度調査) 600千円
(積算)			
事業概要：	<p>滞在時間延長・リピータ獲得に向けた、モデルコース・PR情報作成及び構成文化財磨き上げ等のためのマーケティング調査・観光客動向調査(外国人を対象を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度 ・マーケティング調査：観光客の認知度及びニーズ調査等による重要拠点等の把握 ・観光客の動向分析調査：観光客の動向分析によるモデルコース等作成用データの取得 ○ 平成32年度 ・マーケティング調査：観光客の満足度調査に基づく、日本遺産を軸とした地域内構成文化財を組み合わせたストーリー全体としての魅力及び課題等の把握による、構成文化財の磨き上げ及びPR情報等の作成用データの取得 		
評価指標区分：	嗜好性調査を踏まえた商品開発数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	モデルコース等のコース作成数(ツアーコース)		
目標値：	平成 29 年度	0 個	⇒ 平成 35 年度 5 個

事業④： 魅力ある商品開発に向けたモニターツアー事業			
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度： 1,650千円	平成32年度： 0千円
(積算)		モニターツアー バス@5万円×30回=1,500千円 チラシ@15×10,000部=150千円	
事業概要：	滞在時間延長・リピータ獲得に向けた周遊コース開発 (温泉・自然などの周辺観光資源、地元食などと組み合わせたモデルコース作成、 モニターツアーの実施、着地型旅行商品等の開発)		
評価指標区分：	嗜好性調査を踏まえた商品開発数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	モデルコース等のコース作成数 (ツアーコース)		
目標値：	平成 29 年度	0 個	⇒ 平成 35 年度 5 個
事業⑤： 情報発信及び現地ナビゲーションの充実を図る多言語対応観光アプリ構築事業			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 4,941千円	平成31年度： 500千円	平成32年度： 500千円
(積算)	観光アプリ構築 (多言語対応) 4,941千円	日本遺産特集サイト作成 500千円	モデルコースサイト作成 (サイクルツーリズム向けを含む) 500千円
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度 多言語対応観光アプリの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産情報を掲載するホームページ機能 ・遊びと学びの両立・回遊性の向上を目的としたナビゲーション機能、 モデルコース周遊機能 (フォトラリー・スタンプラリー等) ・登録したユーザーに旬の情報を自動配信するプッシュ配信機能 ・外国人観光客支援機能 (外国人向け日本遺産紹介記事掲載、 外国語音声ガイド機能、現地で活用できる会話集等) ・VR等を活用したバーチャル体験機能 ○ 平成31年度 日本遺産の魅力を十分に発信する日本遺産特集サイト等の作成 ○ 平成32年度 Web及びアプリ向けのモデルコースサイト等の作成 (サイクルツーリズム向けモデルコースを含む) 		
評価指標区分：	ホームページ閲覧数 (PV数)	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	スマートフォンアプリのPV数 (平成30年度のPV数を基準値とする。)		
目標値：	平成 30 年度	基準値 件	⇒ 平成 35 年度 30%増 件
事業⑥： 日本遺産の普及啓発を促進するアニメーション作成事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 10,000千円	平成31年度： 0千円	平成32年度： 0千円
(積算)	アニメーション作成10,000千円		
事業概要：	日本遺産の認知度向上を目的とした日本遺産紹介アニメーションの制作 (重要拠点での観光案内や講座等で使用し、外国人も対象に含む。)		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	アンケート調査における日本遺産の認知度 (初年度に調査結果を基準値とする。)		
目標値：	平成 30 年度	未把握 %	⇒ 平成 35 年度 20 %

事業⑦： パンフレット・ポスター等による日本遺産の魅力発信事業			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 1,225千円	平成31年度： 1,380千円	平成32年度： 0千円
(積算)	概要パンフレット制作 @14×5万部=700千円 ポスター制作 @500×650部=325千円 出張PR用フラッグ制作 @2,500×80本=200千円	総合パンフレット制作 @60×2万3千部=1,380千円	
事業概要：	○ 平成30年度 ①概要パンフレット制作 (イベント・キャラバン等でのPR用及び道の駅等の発信拠点設置による観光客への日本遺産概要紹介用パンフレット) ②ポスターの制作(道の駅や構成文化財等の発信拠点設置用) ③イベント等での出張PR用フラッグの制作 ○ 平成31年度 ④総合パンフレット制作 (日本遺産講座等での配布及び発信拠点設置による観光客への日本遺産紹介用パンフレット) ※制作物にQRコードを付け、ホームページやアプリへのアクセスを促す。		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度 20,970 千人 ⇒ 平成 35 年度 22,260 千人		
事業⑧： 動画による日本遺産の魅力発信事業			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度： 2,000千円	平成32年度： 0千円
(積算)		PR動画・フォトコンテンツ制作 2,000千円	
事業概要：	四季のPR動画及びフォトコンテンツ制作(ホームページ等による情報発信用)		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度 20,970 千人 ⇒ 平成 35 年度 22,260 千人		
事業⑨： 記事広告掲載による日本遺産の魅力発信事業			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 0千円
(積算)		新聞雑誌等特集記事掲載@5,000千円	
事業概要：	マーケティング調査結果にもとづく新聞雑誌等への広告記事掲載		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度 20,970 千人 ⇒ 平成 35 年度 22,260 千人		

事業⑩： 日本遺産メイン拠点「那須野が原博物館」整備事業			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 28,516千円	平成31年度：	0千円
		平成32年度：	0千円
(積算)	電子案内板システム構築・設置工事 2,500千円 外国人向け案内機能の制作・設置 8万円×20箇所1,600千円 文化財3D計測・保存データ制作 306万×5文化財15,300千円 ジオラマ制作・設置工事文化財5文化財5,508千円 壁面グラフィックパネル制作・設置工事 3,608千円		
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチパネル式電子案内板のシステム構築・設置工事 (日本遺産・構成文化財の概要及び動画・フォトコンテンツ等を紹介) ・外国人向け案内機能の構築・設置 (赤外線通信を使用し外国語等で日本遺産・構成文化財の概要を説明) ・日本遺産紹介ジオラマ及びグラフィックパネルの制作・設置工事 		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度 20,970 千人 ⇒ 平成 35 年度 22,260 千人		
事業⑪： 歴史・文化を体感する重要拠点整備事業			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 3,780千円	平成31年度：	0千円
		平成32年度：	3,000千円
(積算)	電子案内板システム構築・設置工事 420千円×9箇所3,780千円		体験メニュー・関連商品・サービス開発 3,000千円
事業概要：	道の駅や旧青木家那須別邸・千本松牧場等の一部の構成文化財を重要拠点として、案内や体験メニューを整備する。 ○ 平成30年度 重要拠点への電子案内板のシステム構築・設置工事 (日本遺産の概要及び設置した重要拠点情報の紹介) ○ 平成32年度 重要拠点での体験メニュー等の開発 (カフェスペース、フォトスポット、高校と連携した受入事業、周遊ツアー等)		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度 20,970 千人 ⇒ 平成 35 年度 22,260 千人		
事業⑫： 構成文化財の案内看板の整備			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度：	3,100千円
		平成32年度：	0千円
(積算)		案内板@10万円×31か所=3,100千円	
事業概要：	構成文化財の案内看板 (多言語対応) の整備		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度 20,970 千人 ⇒ 平成 35 年度 22,260 千人		

事業⑬： 地元食と連携した日本遺産の魅力創出事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度： 1,000千円	平成32年度： 1,000千円
(積算)		食の連携事業関連イベント 500千円 食の連携事業関連広告宣伝 500千円	食の魅力創出事業関連イベント 500千円 食の魅力創出事業関連広告宣伝 500千円
事業概要：	<p>○ 平成31年度 那須塩原市・那須町にまたがり牛乳等をPRしているミルク街道や那須塩原市内の旅館・飲食店が参画している巻狩鍋フェア等と連携し、イベント等でのPRを行う食の連携事業</p> <p>○ 平成32年度 農業関連団体及び地産地消事業者等との連携により、日本遺産ならではの新たなメニューを開発し、イベント等でのPRを行う食の魅力創出事業</p>		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	アンケート調査における日本遺産の認知度(初年度の調査結果を基準値とする。)		
目標値：	平成 30 年度	未把握 %	⇒ 平成 35 年度 20 %
事業⑭： 魅力的なフォトスポット発掘事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度： 0千円	平成32年度： 600千円
(積算)			写真コンテスト (チラシ・展示会消耗品) 600千円
事業概要：	Web等を活用したフォトコンテストの実施 (フォトスポットの発掘・観光写真の収集・撮影のための来客効果、SNS等による景観拡散)		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	アンケート調査における日本遺産の認知度(初年度の調査結果を基準値とする。)		
目標値：	平成 30 年度	未把握 %	⇒ 平成 35 年度 20 %
事業⑮： 自転車で日本遺産を巡る「那須野が原」ポタリング推進事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度： 0千円	平成32年度： 150千円
(積算)			自転車散歩周遊マップ@15×10,000部 =150千円
事業概要：	<p>関連団体と連携し、周遊コースの開発及び周遊マップを制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4市町の共通まちづくりテーマである自転車での周遊コース開発 ・サイクルツーリズム向け周遊マップの制作(紙媒体及び電子版) 		
評価指標区分：	日本遺産に関する商品開発数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	モデルコース等のコース作成数(自転車コース)		
目標値：	平成 29 年度	0 個	⇒ 平成 35 年度 5 個

様式4 (別紙③)

(7) その他事業

事業①:	那須塩原市歴史文化基本構想策定事業		
機関・団体:	文化庁	:	文化庁
事業期間:	平成 29 年度	～	平成 31 年度
事業概要:	那須塩原市歴史文化基本構想を策定し、市内の文化財を、指定・未指定に関わらず総合的に把握し、それらの一体的な保護・活用を図る		
事業②:	大田原市歴史文化基本構想策定事業		
機関・団体:	文化庁	:	文化庁
事業期間:	平成 29 年度	～	平成 31 年度
事業概要:	大田原市歴史文化基本構想を策定し、市内の文化財を、指定・未指定に関わらず総合的に把握し、それらの一体的な保護・活用を図る		
事業③:	旧青木家那須別邸保存修理強化対策事業		
機関・団体:	文化庁	:	文化庁
事業期間:	平成 31 年度	～	平成 年度
事業概要:	国指定重要文化財「旧青木家那須別邸」の修理を行い文化財の保存を図る		
事業④:	那須疏水旧取水施設導水路整備事業		
機関・団体:	文化庁	:	文化庁
事業期間:	平成 32 年度	～	平成 年度
事業概要:	国指定重要文化財「那須疏水旧取水施設」の導水路に堆積している土砂等のしゅんせつ		
事業⑤:	2020東京オリンピック・パラリンピック関連事業		
機関・団体:	文化庁以外の省庁	:	内閣官房
事業期間:	平成 30 年度	～	平成 35 年度
事業概要:	オーストリアを相手国とするホストタウン登録に基づく交流促進		
事業⑥:	チャリ旅！～栃木県北サイクルツーリズム事業～		
機関・団体:	文化庁以外の省庁	:	内閣府
事業期間:	平成 28 年度	～	平成 30 年度
事業概要:	大田原市、矢板市、那須町による自転車のまちづくり広域連携。広域でのコース設定やプロモーション等を実施する。		
事業⑦:	那須地域定住自立圏共生ビジョン推進事業		
機関・団体:	文化庁以外の省庁	:	総務省
事業期間:	平成 30 年度	～	平成 35 年度
事業概要:	首都圏からの玄関口である那須塩原駅の観光案内所への圏域の観光情報集約による観光情報の発信や提供、広域公共交通網の形成		
事業⑧:	国際交流員運用事業		
機関・団体:	文化庁以外の省庁	:	総務省
事業期間:	平成 30 年度	～	平成 35 年度
事業概要:	姉妹都市であるリンツ市のあるオーストリアからの国際交流員招へいによる国際交流推進		
事業⑨:	農作物の販路拡大支援事業（直売所整備）		
機関・団体:	文化庁以外の省庁	:	農林水産省
事業期間:	平成 30 年度	～	平成 32 年度
事業概要:	道の駅「明治の森・黒磯」旧青木家那須別邸（構成文化財）隣接の直売所整備		
事業⑩:	那須高原ミルク街道		
機関・団体:	都道府県	:	栃木県
事業期間:	平成 30 年度	～	平成 35 年度
事業概要:	那須塩原市・那須町で生産される豊富な食とその他地域資源を連携する事業		

事業⑪：	那須野が原博物館特別展開催		
機関・団体：	自主事業	： 那須塩原市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	那須野が原の近代史に焦点を当てる特別企画展示の開催 H30「那須野が原に農場を～華族が目指した西洋～」H32「那須疏水展(仮称)」		
事業⑫：	文化財解説板更新事業		
機関・団体：	自主事業	： 那須塩原市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	文化財啓発のための環境整備		
事業⑬：	市民大学講座「歴史と旅する講座」		
機関・団体：	自主事業	： 那須塩原市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	文化財啓発のための情報発信事業		
事業⑭：	観光誘客促進事業		
機関・団体：	市町村	： 那須塩原市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	首都圏向け観光プロモーション、インバウンド事業（市観光局に対する支援）		
事業⑮：	観光振興推進業務		
機関・団体：	自主事業	： 那須塩原市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	観光ガイド作成		
事業⑯：	多言語対応観光アプリ運営		
機関・団体：	自主事業	： 那須塩原市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	多言語に対応した市観光専用アプリの運営（システム使用料、コンテンツ加除・更新等）		
事業⑰：	那須野が原西部田園空間博物館運営事業		
機関・団体：	市町村	： 那須塩原市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	那須野が原の文化や歴史に係る建築物や田園空間が広がる地域としての田園空間博物館の運営		
事業⑱：	松方別邸周辺整備事業		
機関・団体：	自主事業	： 那須塩原市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	松方別邸（構成文化財）の周辺整備		
事業⑲：	明治150年に伴う旧青木家那須別邸整備・活用事業		
機関・団体：	自主事業	： 那須塩原市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	旧青木家那須別邸の施設整備及び見学ツアー等の充実		
事業⑳：	中学生海外交流事業		
機関・団体：	自主事業	： 那須塩原市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	姉妹都市であるオーストリア・リンツ市との中学生相互交流		

事業⑳：	「明治の森・黒磯」再整備事業		
機関・ 団体：	自主事業	： 那須塩原市	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	道の駅「明治の森・黒磯」旧青木家那須別邸（構成文化財）隣接の駐車場増設、園路整備、歩道整備		
事業㉑：	創作劇「那須野の大地」上演		
機関・ 団体：	市町村	： 那須塩原市	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	那須塩原市と市民劇団「劇団なすの」共催による那須野が原開拓を題材とした創作劇（H12初演）の上演		
事業㉒：	（仮称）駅前図書館郷土資料デジタル化事業		
機関・ 団体：	市町村	： 那須塩原市	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	「公益財団法人図書館振興財団」が実施する新たな図書館サービスの構築を目的とした郷土資料・貴重資料等のデジタル化及び公開		
事業㉓：	観光事業推進事業		
機関・ 団体：	市町村	： 大田原市	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	観光協会活動支援、紫陽花祭り支援、アンテナショップ運営支援、DC関係事業、大田原グリーンツーリズム推進協議会支援		
事業㉔：	観光PR事業		
機関・ 団体：	市町村	： 矢板市	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	市内観光地や郷土物産（りんご）等のPR事業、観光イベントへの支援、団体等への運営支援		
事業㉕：	観光協会活動支援事業		
機関・ 団体：	市町村	： 矢板市	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	観光協会活動支援		
事業㉖：	矢板武記念館庭園改修事業		
機関・ 団体：	自主事業	： 矢板市	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	構成文化財保存のための維持管理事業		
事業㉗：	矢板市立郷土資料館展示室整備事業		
機関・ 団体：	自主事業	： 矢板市	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	文化財啓発のための環境整備事業		
事業㉘：	矢板武記念館展示室整備事業		
機関・ 団体：	自主事業	： 矢板市	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	文化財啓発のための環境整備事業		
事業㉙：	矢板武記念館企画展開催		
機関・ 団体：	自主事業	： 矢板市	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	文化財啓発のための情報発信事業		

事業⑳：	矢板市立郷土資料館企画展開催		
機関・ 団体：	自主事業	：	矢板市
		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	文化財啓発のための情報発信事業		
事業㉑：	歴史講演会開催		
機関・ 団体：	自主事業	：	矢板市
		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	文化財啓発のための情報発信事業		
事業㉒：	文化財を活用した「歩き・み・ふれる歴史の道」事業		
機関・ 団体：	自主事業	：	矢板市
		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	文化財啓発のための情報発信事業		
事業㉓：	観光誘客宣伝事業		
機関・ 団体：	自主事業	：	那須町
		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	観光ガイド制作、観光マーケティング		
事業㉔：	ゆけむりWi-Fi運営事業		
機関・ 団体：	自主事業	：	那須町
		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	温泉地におけるWi-Fi運営（通信料、保守点検料）		
事業：			
機関・ 団体：		：	
		事業期間：	平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：			
事業：			
機関・ 団体：		：	
		事業期間：	平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：			
事業：			
機関・ 団体：		：	
		事業期間：	平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：			
事業：			
機関・ 団体：		：	
		事業期間：	平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：			